

済生会 総研 News



済生会総研の視点・論点

済生会総研 所長 炭谷 茂

第109回 済生会基本構造改革論（4）～済生会の理念の再確認～

組織は、それぞれ理念を持つ。この理念を達成するために事業を展開している。理念なき組織は、社会において有益な使命を果たすことはできない。理念を忘れた組織は、早晚社会から退場を余儀なくされる。

済生会の理念は、明治44年に明治天皇の済生勅語に掲げられた「施薬救療」である。これは当時の日本の社会情勢から誕生した理念である。

当時世界的不況が日本を襲い、明治維新以降近代化・工業化が進んだ日本では多数の失業者が発生した。一方農村では冷害が発生し、多くの農家が生活に困窮し、日本全体が社会不安に覆われた暗い時代であった。

国民の栄養状態が全般的に劣悪だったうえ、結核、チフス、赤痢等の感染症が蔓延したが、ほんの一部の大企業を除いて医療保障制度は、存在しなかった。このため適切な医療を受けられず命を失う人が少なかった。

この状況に対処するために無料で医療—サービスを提供する済生会が創設されたのである。

それから115年の歳月が流れた。今では国民の生活水準は向上し、皆保険制度や所得保障制度が整備された結果、当時のような社会問題はほとんどなくなった。それでは済生会の使命はなくなったのだろうか。

「施薬救療」の理念は、生活困窮者を取り残すことなく、支援の手を差し伸べて社会で尊厳が維持された生活を送ることができるよう支援することである。その内容は、時代の変遷とともに変化する。太平洋戦争終結後の混乱期、高度経済成長期、オイルショック後の低成長期、バブル経済期とそれぞれの時代において異なった生活困窮者問題が存在した。

それでは現在はどうか。結論を急げば、我々が経験したことのないような解決困難な問題をたくさん抱えている。増加する認知症高齢者の医療・介護、家族も苦しめる難病患者問題、進まない精神障害・発達障害等の社会参加、社会からの排除が進む寄せ場、被差別部落、元受刑者、ホームレス、一方で社会から孤立する引きこもりの人、一人暮らしの高齢者など問題が山積している。

これらの問題に敢然と立ち向かうことが、「施薬救療」の理念の発露である。

これらの課題は、今や人類共通の社会課題である。これに挑戦することによって済生会は、この解決策を世界に示すことができる有利な立場に立っている。

研究部門

済生会総研 上席研究員 原田 奈津子

若者支援の現在

昨年の総研 News vol. 99 にて、令和 7 年版厚生労働白書にて、「次世代の主役となる若者の皆さんへー変化する社会における社会保障・労働施策の役割を知るー」と特集が組まれていることを記した。白書では、若者が社会保障や労働施策を知ることの意義を提示し、どのようなライフプランを持つのか、またトラブルに巻き込まれた時の解決など、主体的に生活するという視点を強調しているような内容が目立った。また、地域社会の一員として、社会へのかかわり方についても触れており、事例などから、身近に考えられるような構成になっていた。当事者意識を持つことへの期待が込められていたようであった。

1. 若者の社会保障・労働施策に関する意識

(1) 社会保障・労働施策への関心・理解

- ◆ 関心がある割合は、介護は 4 割強、福祉・公衆衛生は 5 割弱、医療・年金は 6 割前後、労働分野は 8 割前後
- ◆ 理解している割合は、いずれも 5～6 割

(参考①参照)

(2) 社会保障教育・労働法教育の効果

- ◆ 社会保障教育や労働法教育を受けた経験がある場合には、社会保障や労働施策への関心度や理解度が高まっている傾向 (参考②参照)

2. 社会保障や労働施策を知ることの意義

(1) ミクロの視点 ～一人ひとりの社会生活上の課題解決に役立てる～

- 具体的な事例などを通じて考察

1 生活上の困り事の相談、解決ができるようになる

- ◆ 社会保障の仕組みや相談窓口を知ることの重要性
- ※自治体のヤングケアラー支援の取組み (参考③参照)

2 働いていてトラブルに巻き込まれたときに解決できる

- ◆ 働くときのルールを知ることの重要性
- ※「アルバイトの労働条件を確かめよう！」キャンペーン (参考③参照)

3 万が一のときの備えができる

- ◆ 生活上のリスクに対する備え/「わたしと年金」エッセイ
- ◆ 働くときのリスクに対する備え/通勤災害の事例

4 将来の自分を主体的に選択できる

- ◆ 女性の出産後の働き方別の世帯の生涯可処分所得試算の紹介
(出産後に正社員で就業継続した場合と退職した場合では約 1.7 億円の差)

(2) マクロの視点 ～より良い社会づくりに主体的に関わる～

- 以下の 4 つの視点に基づいて考察

1 社会全体で支え合う仕組みの重要性を知る

- ◆ 予測・備えが不可能なリスクを社会全体で支える仕組みの必要性や意義を知る

2 国民一人ひとりで異なる「社会保障や労働施策への関わり方」を知る

- ◆ 個々人の立場の違いにより、直面する状況が異なることを理解し、社会の在り方への考えを深める

3 社会保障や労働施策の当事者として主体的に関わる

- ◆ 利用する当事者にとどまらず、制度を支える当事者として関わる

4 地域共生社会の当事者としての意識を養う

- ※地域共生社会の担い手として活躍する若者を紹介 (参考③参照)

出典 令和 7 年版厚生労働白書〔概要〕厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/001524055.pdf>

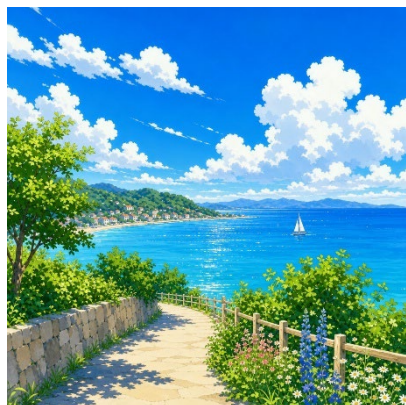
7 月 4・5 日に鉄道弘済会の第 62 回社会福祉セミナーがオンラインで行われ、筆者も聴講したが、そこでのテーマが「これからの若者支援」というものであった。登壇者は研究者だけでなく、NPO 法人などの実践者からの報告がなされた。若者それぞれが抱える生きづらさや孤立などの現状、若者支援の施策の変遷、支援者のかかわり方などさまざまな角度からの議論も興味深いものであった。

また、「居場所づくり」という言葉が多く出てきたが、若者に対して、単なる保護すべき存在や支援の受け手ということだけではなく、先の白書にもあったように、当事者としてともに創るという視点での寄り添い方が求められているということを感じた。

—編集後記—

猛暑日はもちろんそれ以上に酷暑日を警戒する日々です。いつも以上に建物や電車のクーラーのきいたところから、地上に出るとクラクラしてしまいます。昨年以上に男女問わず日傘を差している方が増えている気がします。

この時期恒例の甲子園に向けた地方大会が行われていたのでテレビで観ていたら、暑さで大変そうでした。炎天下、タイブレークまでもつれ込んでいる緊迫した試合では、ふらついたり、足がつったりと選手も極限まで力を出し切ろうとしていて、ハラハラしながら見入ってしまいました。今年はどんな夏になるでしょうか。(Harada)



連絡先 〒108-0073 東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 26 階

TEL 03-3454-3433 (研究部門)

03-3454-3311 (人材開発部門：済生会本部)

URL <http://soken.saiseikai.or.jp/>